

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東京農工大学	整理番号	1806
プログラム名称	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成		
プログラム責任者	有江 力	プログラムコーディネーター	五味 高志

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、農工の融合領域で、新産業創生の基盤構築を目的として、国内外の機関との連携により学生に新しい学びの場を与えていることは評価できる。一方、新産業創出のための多くの取組は実施されているものの、それによりどのような新産業が創出できたのか、また、そのためのマイルストーンとなる基盤技術が実現できたか等の成果の説明が不足している。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、学生が異分野との交流に新しい価値を見出し、ダイバーシティの教育を正しく受け、従来の教育に比べ、俯瞰力や独創力、高度の専門性が向上したことは確認できた。しかし、高度な「知のプロフェッショナル」として世界的なリーダーを目指すという志と自信を身に着けるには至っていない。学生が個々のコンピテンシーを伸ばすための指針や、世界的なリーダーとしての目標設定やロールモデルの提示、およびカリキュラムの再考が必要である。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、新しい制度や仕組みを大変有効に活用できている学生がいる一方で、十分に制度を活用できず、負担を感じている学生も一定数いる。コロナ禍の影響も考えられるが、このような学生に対して、担当教員やメンターからのきめ細かい対応が必要である。

優秀な学生の獲得については、学生に対する経済支援は、研究費の支援のみで、生活支援を行わないにもかかわらず、一定数の学生を確保できていることはひとつの考え方として理解できる。その一方で、文部科学省・日本学術振興会が実施したアンケートの回答において、3分の1の学生が、経済的支援について不十分と感じていることも事実であり、他の制度による支援も組み合わせるなど、もう一段の工夫が必要である。

世界に通用する確かな質保証システムについては、卓越リーダー養成機構による独立した新しい基準での評価体制で、ポートフォリオシステムにより可視化して学生にフィードバックする仕組みは大変有効である。その評価基準において、論文より新産業創出に対する取組を評価したいという考えは理解できるが、学位論文の審査母体や、K P Iの明記等、その基準の客観性に対する説明が不十分である。また、質保証は国際的な水準で行われるべきと考えられるため、外部評価等の工夫が望まれる。

事業の継続・発展については、学内での資源確保や事務職員の配置など事業の継続のための取組は確認できる。一方、外部資金を継続的に得るためには、新産業創出の基盤構築の実績をできるだけわかりやすい形にして、ステークホルダーが魅力を感じるような説明が必要である。